

令和元年度 第3回古賀市地域公共交通会議

【議事録】

I 日時

令和2年3月13日（金）

15時～17時

II 場所

古賀市役所第2庁舎2階 中会議室

III 次第

1 古賀市地域公共交通網形成計画(案)について

2 今後のスケジュールについて

IV 出席者(敬称略)

<input type="checkbox"/> 古賀市 総務部長	吉村 博文	
<input type="checkbox"/> 古賀市 建設課長	橘 勇治	欠席
<input type="checkbox"/> 西日本鉄道株式会社 営業第二課 課長	宮本 寛之	
<input type="checkbox"/> 花鶴タクシー有限会社 代表取締役	保井 享	
<input type="checkbox"/> 株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典	
<input type="checkbox"/> 一般社団法人福岡県バス協会 専務理事	中川原 達也	欠席
<input type="checkbox"/> 一般社団法人福岡市タクシー協会 事務局長	森川 直行	
<input type="checkbox"/> 公募市民	河村 正彦	
<input type="checkbox"/> 公募市民	久池井 良人	
<input type="checkbox"/> 公募市民	安武 洋子	
<input type="checkbox"/> 九州運輸局福岡運輸支局 支局長	坂本 正弘	(代理)
<input type="checkbox"/> 西日本鉄道労働組合 自動車対策部長	山本 義美	欠席
<input type="checkbox"/> 九州産業大学 理工学部 准教授	稲永 健太郎	
<input type="checkbox"/> 大分大学 経済学部 教授	大井 尚司	欠席
<input type="checkbox"/> 九州旅客鉄道株式会社 福工大前駅 駅長	金光 高広	
<input type="checkbox"/> 社会福祉法人古賀市社会福祉協議会 事務局 次長	檜山 信夫	

V 議事録

1 開会

- ・会長より、開会の挨拶が行われた。
- ・事務局より欠席の確認、資料の確認が行われた。

2 古賀市地域公共交通網形成計画(案)について

- ・古賀市地域公共交通網形成計画(案)について、事務局より説明が行われた。

(前半:p1~p25)

保井委員

- ・計画の目標設定について、市民一人当たりの年間利用回数 4.3 回を目指すということだが、現状は年何回利用されているのか。

事務局

- ・現在は年4.0 回程度である(計画書p22)。

坂本委員(代理)

- ・計画の目標設定について、西鉄バス古賀市内線の収支率を 43.2%から 50%へ上昇を目指すということについて、人口が減少する中で実現可能なのか。

事務局

- ・収支率の目標設定についての質問であった。計画書p18 に収支率の推移のグラフがあり、過去の西鉄バス古賀市内線における収支率の経緯を記載している。グラフのとおり、H23 年度には収支率 58%だったものが、現状としては減少しており、直近では 48%となっている。令和元年度にはさらに下がっており、43.2%(推計値)となっている。
- ・赤字に対し、市として運行補助を行い維持しているものの、補助金は税金である。税金を投入する以上は、市民の理解を得る必要があると考えている。
- ・実現可能かということについては、厳しいものであると思う。市民の方に使っていただかないと収支率の改善は難しい。事務局としても運行改善や周知等、総合的に取り組んでいく必要がある。

会長

- ・現状の市民一人当たりの利用回数 4.0 回/年を伸ばして、年 1 回でも利用していただくところからのスタートになる。現実には年 1 回の利用も厳しいかもしれないが、2 人に 1 人でも利用していただくことで 0.5 回増えることになる。また、往復で考えれば、4 人に 1 人でも往復で利用していただければ、この目標達成も見えてくるはず。
- ・市民の意識が変わることによっても達成できる面があると思われる。そこまでの努力も必要である。

吉村委員

- ・西鉄バス古賀市内線については、小竹線を小型化する、コガバスにするということで、収支はいくらか改善することが考えられる。一方、その影響でコガバスについては反対に収支率が厳しくなるのではないだろうか。

事務局

- ・コガバスについては仰るとおりである。基本料金が一般 150 円、70 歳以上が 100 円で利用いただいており、70 歳以上の利用が全体の 6 割である以上、収支率としては上がりにくい構造となっている。
- ・委託で運行しており、運賃収入で不足する分は税金で賄っている。少しでも市民の負担を減らすという側面で、県の補助も活用すべきという観点から、県の補助を得られるよう収支率 25%を目指していきたい。難しい目標になっているとは事務局としても考えている。

副会長

- ・指標を「市内路線の収支率」ということで、現況と目指す数字、市民がどれくらい利用すればいいかということを明確に出されたのは、非常に大事だと思う。
- ・しかしながら、指標というのはこれだけではないと考える。このような数字が大事だということは、市民一人ひとりが自覚してもらわないと達成できるようで達成できないものだと考える。
- ・将来的にも公共交通を維持するためには、「これだけのことが必要なのだ」という意識付けのアクションがなければ、市民の方にしっかりと理解してもらうのも難しいのではないかと思う。
- ・これらも大事な指標だろうが、他にも 5 年間で達成すべき指標があるべき。例えば、市民がどれだけ公共交通に対する意識を持っているのかということや、現状の満足度に関する指標もあるべきだと考える。「現状の満足度は足りないが、好転することで満足度が上がる」「まだ使っていないが、意識として『使ってみよう』と思うようになった」といった前段階のこともきちんと踏まえていくべき。これだけの指標が前面に出してしまうのはどうなのかと思う。他の目標の具体化を期待したい。

事務局

- ・市民の意識や満足度は、非常に重要だと考えている。しかしながら、満足度については毎年測るのが現実的に難しい。また、計画書の後半に取組に対する指標をいくつか設定している。
- ・公共交通に対する市民の満足度は、例えば市の総合計画で図る機会があるため、そういった市全体で測る指標できちんと測ってきたい。

保井委員

- ・コガバスの収支率 25%を目指すということであるが、現実的に極めて難しいのでは。収支率が下がることはあっても上がることはない。他に「バス停を新たに設置する」といった代替案を考えていただいた方がよいのではないか。導入して、最初のころは乗られても、年数が経つにつれて利用が減少し、収支率もどうしようもなくなる場所がある。ある程度コガバスのことを考えれば、バス停を追加設定された方がよいのではないかと思う。この調子ではそのうちなくなるのではないかと思う。

事務局

- ・コガバスはもともと9人しか乗れない上、150円の運賃設定で運行開始しており、市としても赤字となることを前提として運行している。ある意味、公共施設間の移動手段として、市民に対する最低限のサービスとして赤字であっても必要であるという考えが根底にある。
- ・福岡県では、各自治体が走らせるコミュニティバスに対して補助金を交付しており、その要件が「収支率 25%以上」という設定になっている。今後も運行を続けていく、持続可能性向上に向けては、補助金も有効活用していく必要があると考えている。非常にハードルが高いが、「25%」という目標をあえて設定させていただいた。
- ・一方、他の自治体からも「25%は高い。コミュニティバスを守っていくためには、もう少し要件を緩和してほしい」という県への指摘が挙がっている。本市においても、それらの動きと合わせて県に働きかけをしていきたいと考えている。

会長

- ・今の市内路線を現状維持したままで収支率向上を目指すということではない。当然、いろいろな見直しも含めてこの5年間で収支率を上げていくということである。

河村委員

- ・コミュニティバスに関しては、福津市や新宮町等、他の地域でも見かけるが、他の地域と比較して、他の地域も難しいのか、古賀市だけが厳しいのかがわかれば参考になる。
- ・他の地域では便数も多く、うまくいっているような印象を受ける。他地域と比べての比較検討というものがあれば教えていただきたい。

事務局

- ・福津市では、路線数、便数ともに多い。福津市はそれを維持するため、曜日によって違うダイヤ、ルートを設定する工夫をされていて、一方でそれが逆にわかりにくくなっているという話を伺っている。福津市も通常運賃200円で、70歳以上は100円で利用できるようにしており、100円の運賃がメインで、収支率が悪いということも伺っている。
- ・新宮町では町内路線としての西鉄バスは運行しておらず、コミュニティバスのマリックス、山らいず線、相らんど線だけが運行しており、年間4~5千万円近い額を補填している状況である。
- ・便数で比較する際、単純にコミュニティバスを比較するのではなく、新宮町のコミュニティバスと西鉄バス古賀市内線とコガバスを足した便数で比較するべきだと考えており、そのように比較すると、古賀市の方が便数が多い状況で、同じくらいの経費をかけて、便数は多く維持していると認識している。単純にコガバスとマリックスを比較すると違うと思うが、路線バス総体として比較するとそのようになる。
- ・新宮町、福津市、両方の担当者からも「古賀市の方がいい」と聞いており、本市だけが非常に難しいということもないと考えている。

保井委員

- ・福栄タクシーで津屋崎線、勝浦線、若木台の3ルートを平和タクシーと曜日を分けて駅の周辺を運行している。毎年ルートを見直ししており、勝浦ルートの28人乗りを西鉄バスの路線維持のため、津屋崎線の方に移る予定である。

- ・福間が2社で3ルートずつあるが、財政負担も5千万円近い。宗像市では西鉄バスが4千万円。宗像市はバスを買ってくれる。福間は13人乗りのバスと28人乗りのバスが走っている。最終的には宗像も福間も金額を抑えないと運営ができないため。利用促進だけでなく、市が負担する全体の経費自体を何とかする必要があると考える。

宮本委員

- ・収支率について、利用者の数も運賃もほぼ現状と同じで収支率を上げるには、今まで乗っていない人が乗るか、現在乗っている人の利用回数が増えるかである。
- ・運賃収入は単価と数量の掛け算でしかないため、収支率を上げるには利用者を増やすか、運賃を上げるかの二択しかない。行政からの補助に頼りすぎると限界があり、受益者がもう少し負担していただいてもよいのではないか。今まで150円だったのが200円になれば反発が大きいだろうが、収支率等の情報をきちんと開示し、経費や燃料費が上がっている以上、維持していくには、運賃を上げることしか選択肢としてないと事業者としては考えている。

吉村委員

- ・計画期間について、計画案が今週中に固まり、パブリックコメントが春先で、完成するのは夏場になるのでは。そうすると実質令和3年から施策をスタートするということになるのか。計画は令和2年の4月からはじまるように見受けられるが、そのあたりが今一つわからない。

事務局

- ・計画期間は5年間で、計画書にはp3に計画期間をR2年度からR6年度と記載している。
- ・今年度中に計画案を作成し、来年度4月に1か月のパブリックコメントを予定している。その後、最終調整を行い、来年度の6月、7月には計画書として固まる。そのような関係で、令和2年を若干し食い込むが、年度で言うと計画期間は5年間としている。

会長

- ・計画のスタートは1、2か月遅れることになるが、計画の動きとして支障が出るというとはないと認識でよいのか。

事務局

- ・会の後半で施策を記載しているが、R2年度から動き出すことはできるものと考えている。
- ・古賀市地域公共交通網形成計画(案)について、事務局より説明が行われた。

(後半:p26~p43)

保井委員

- ・計画書p29に、事例として西鉄バスが実施している「のるーと」が紹介されており、これは福岡市の助成金なしで実施しているが、今後はこういった形が進んでいくものと思う。
- ・宗像市の吉武地区では西鉄バスが撤退となり、こういった取組をタクシーで実施することを考えたが、スマートフォンを使えないということを理由に高齢者より猛反対を受け、実施を中止してい

る状況にある。

- ・どこの市町村も補助金もかけずに運行するなら「のるーと」が見本になると考えられるが、そのような実態があるため、今後は工夫をして、実験していかないと前に進まないと思う。

会長

- ・このような取組は全国的に始まりかけている状況にあるが、高齢者の方からは突拍子もないものに思われることが想定される。
- ・スマートフォンの使い方を含めて、世の中の流れとしてこのような状況は避けられないものであるため、流れに乗っていく必要がある。最近では高齢者のスマートフォンの所有率も上がってきている。

安武委員

- ・計画書の中にも「スマートフォンの使い方の教室をやろう」といった記載があった。高齢者も使い方を知りたいものの、同時に抵抗も感じているものと思われる。
- ・「便利さを共有しませんか」という、古賀市の行事と抱き合わせで乗り方教室等も取り組むと、より広まっていくものと考えられる。

副会長

- ・計画書p30、p31「公共交通を利用しやすい環境の整備」は非常によい取組だと思う。バスを利用するには、便数だけではなく、実際に利用しやすい環境づくりも重要である。
- ・P31 に拠点となる施設を設定しているが、これらは公共施設だけが取り上げられている。実際は民間の商業施設とのタイアップも必要だと思う。例えば、サンリブ前の古賀北停留所は屋根もないが、サンリブ利用者の利用からかなりの利用がみられる。こういった民間の施設への目配りも必要なのではないかと思う。国道 495 号を歩いていると、福津市内に入るとバス停に屋根がかなりついており、落差があるように感じられる。
- ・公共施設を整備することだけでも非常に重要だと考えているが、できれば公共施設に限らず、市民の方が多く利用されている施設についても、何らかの形で位置づけの中に入れていただければと思う。

事務局

- ・指標の設定としては、今挙げている 10 か所で測りたいと思う。
- ・実施に事業を実施する上では、これらの施設以外においても環境整備が必要になる場所もあるものと考えている。p31 の文章を工夫し、盛り込めるのは盛り込みたい。

会長

- ・店先の一部のスペースを借用するといったこと等、色々な連携の在り方があるものと考えられる。

保井委員

- ・計画書p41「連携強化」も大事だろうが、自主的に実施することも重要である。おでかけタクシーでは、イオンでなく市内のサンリブで買い物してほしいという考え方は当然あるべきだと考える。

サンリブがいつ撤退するかわからない。そういう状況の中、おでかけタクシーをもっと利用していただいて、地元の購買力を支え、買い物ならサンリブを勧めるようにするとともに、もう少し他の地域にもおでかけタクシーを広めていただきたい。

- ・協議会について、工業団地の方をメンバー入れれば、色々と話が出るのでは。現在は社員の送迎を行っているものの、バスの補助をしてバスで通勤してもらおうということも考えられる。

会長

- ・工業団地については、それぞれの企業が送迎を行っているのか。

保井委員

- ・送迎を行っているところと行っていないところがある。
- ・恐らく、行き帰りのバスの時間が若干変わっていて、バスが利用できなくなり、タクシー会社にカバーしてほしいというニーズがある。団地の中にも従業員が多くいる。

事務局

- ・構想としてはあったが、そこまで検討が進んでいないのと、調査もそこまで踏み込めなかったこともあり、計画には記載していない。しかしながら、工業団地で働いている方の移動をどう支えるかという検討も必要であるため、路線の見直しと関連するところ等で、工業団地の方のご意見を伺うのも必要だと思う。計画には記載しきれていないものの、次年度以降でそういった場を設けることも考えていきたい。

会長

- ・ニュアンスとしては若干違うものの、事業 4-2「多様な分野の連携強化」に加えてもよいのでは。

副会長

- ・「施策 3 利用の促進」「施策 4 様々な主体の参画・連携強化」について、これまでの検討の結果をよく入れて、かなり具体的なことも打ち出せていると思われる。
- ・こういう内容は関係者の中で深まりがちだが、実際に利用するのは一般の市民であり、市民の方に届くよう、平たく、わかりやすい内容にしていくことが大事だと思う。
- ・例えば、今日の会議もコガバスの案内があったが、市内の催し物でバスという移動手段があることもしっかり伝えていく必要がある。公共交通について認識していると思いきや、市民の方はバスのことをほとんど認知していない。そこらへんも市として一体となって、色々な場でバスの利用を案内する取組を行っていく必要があると思う。
- ・協議会で訴えるということもあるだろうが、例えば広報誌で特集を組んでもらう等、人の目に触れられること、新しい動きをしていることを実感していただくような内容が必要だと思う。
- ・連携強化が、関係者の中だけで深まるのではなく、市民の方々に届く目配りを広報としてもお願いしたい。

事務局

- ・広報については、そういう視点で、市民の方によくバスの現状を知ってもらい、使っていただかないと先は厳しいということを含めて、積極的な広報をやっていききたい。

会長

- ・担当課だけでは限界があるため、市全体で、いろんな課で連携して動いていただければと思う。

河村委員

- ・広報は詳細に読んでいる。1ページ、半ページでいいので、何回か繰り返して掲載していただくと、アピールになる。完成したものでなく、途中のプロセスでもいいので、進んでいることがわかれば、市民も関心をもって協力しようという機運が高まると思う。
- ・これまでの検討の経過全体に関して、前回2014年に設置された「公共交通活性化委員会」では、議論がなかなか深まらないと思っていたが、今回の感想として、これまでの議論の経過を見て、非常に体系的に整っており、データも科学的に記載されていて、安心感があるものになったと思う。担当の方大変だろうが、前回に比べて深まっている気がする。今後もこのようにうまくいけばいいと思う

保井委員

- ・西鉄バスに伺いたいのだが、コロナウイルスの影響で利用が落ち気味ではないか。

宮本委員

- ・全国的に不要な外出控えられている。休校になって通学もない。テレワークも推奨されている。そういった影響で、前年で7割、8割弱の利用状況である。
- ・今日の報道で発表しているが、高速バス路線は利用がかなり低迷しており、減便している。
- ・古賀市内線も同様の状況である。

会長

- ・計画の基準となる数字であるが、いきなり1年目が外部要因によって外出機会が減っているという厳しい状況である。一過性のものになることを期待したい。

2 計画に関わる予定

- ・今後の予定について事務局より説明が行われた。

3 閉会

事務局

- ・今年度は地域公共交通網形成計画の策定ということで、委員の皆様におかれましては、ご多忙の中ご協力いただきありがとうございました。会議を3回、作業部会を3回行い、計画の案をまとめられた。色んな調査を行って、古賀市の公共交通における現状、課題、やるべきことをまとめられた。このことについて、皆様にはお礼を申し上げたい。
- ・来月にはパブリックコメントを行い、最終的に調整の上、本市の地域公共交通のマスタープランになるため、このマスタープランに沿って施策を展開していきたい。担当課としても、非常にハー

ドルが高い内容も多いと認識しているが、公共交通は役割として大きいものを担っていると認識している。

- ・委員の皆様が任期が2年ということで、今後もお力をいただきながらやっていきたい。簡単ではあるが、お礼に代えさせていただきたいと思う。

会長

- ・数多く検討会議を実施させていただき、ある一定の成果が出たのではないかと思います。ここがスタートであるため、引き続きお力いただきながら計画を進めていきたい。

VI 当日写真

